

宇都宮アクセラレーター2023 ご説明資料

1. 弊社イグニション・ポイントのご紹介
2. アクセラレータープログラムについて
3. オープンイノベーションプログラムについて

弊社のご紹介

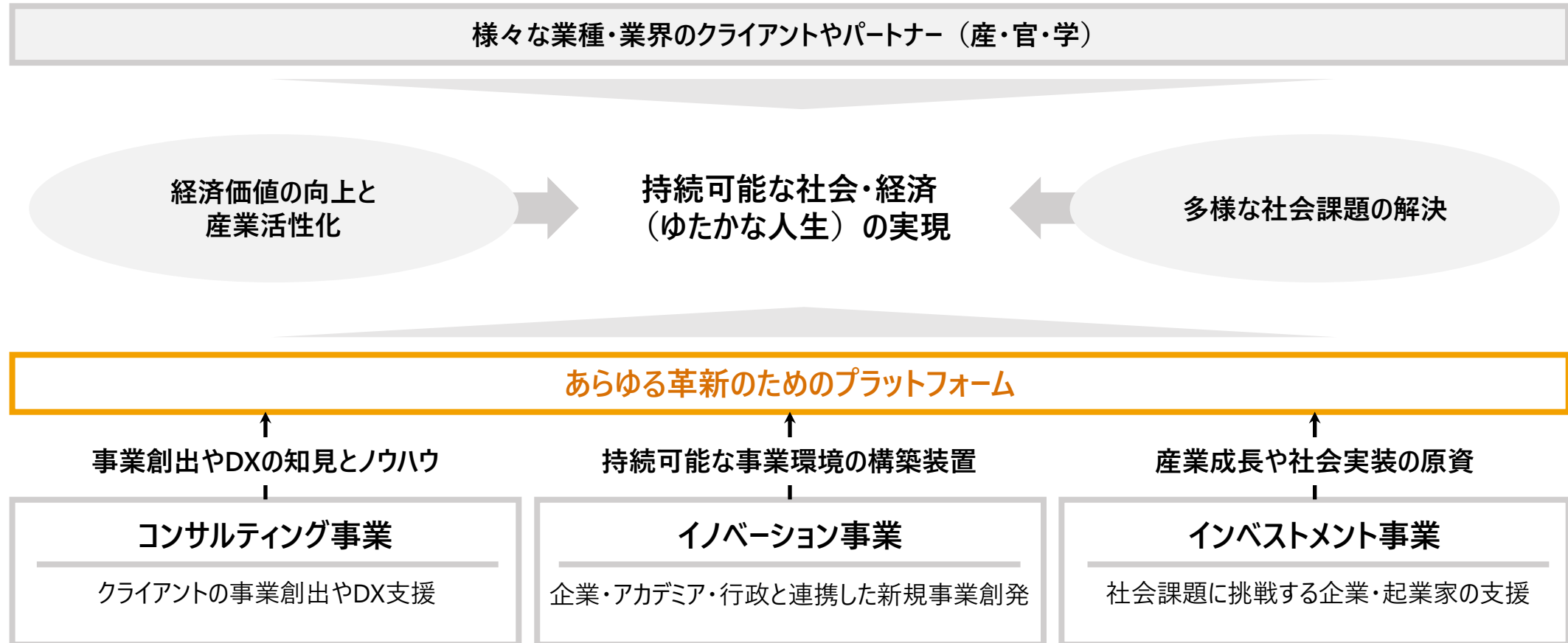
会社概要

弊社は、新規事業創出とデジタルトランスフォーメーションを強みに、コンサルティング事業、イノベーション事業、インベストメント事業の3軸で事業を展開しております。

会社名	イグニション・ポイント株式会社 (英字表記：Ignition Point Inc.)
所在地	本社：東京都渋谷区東1-32-12 渋谷プロパティタワー8F 関西拠点：大阪府大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト
経営体制	代表取締役社長 末宗 喬文 取締役(非常勤) 佐野 傑 加藤 剛輔 監査役(非常勤) 荒木 香織 執行役員 田代 友樹 安田 鉄平 石田 航
設立	2014年6月4日
従業員数	350名 (グループ会社を含む。2023年4月現在)
代表番号	03-6434-1412
事業内容	コンサルティング事業 イノベーション事業 インベストメント事業
グループ会社	イグニション・ポイント フォース株式会社 イグニション・ポイント ベンチャーパートナーズ株式会社 株式会社MIRARGO

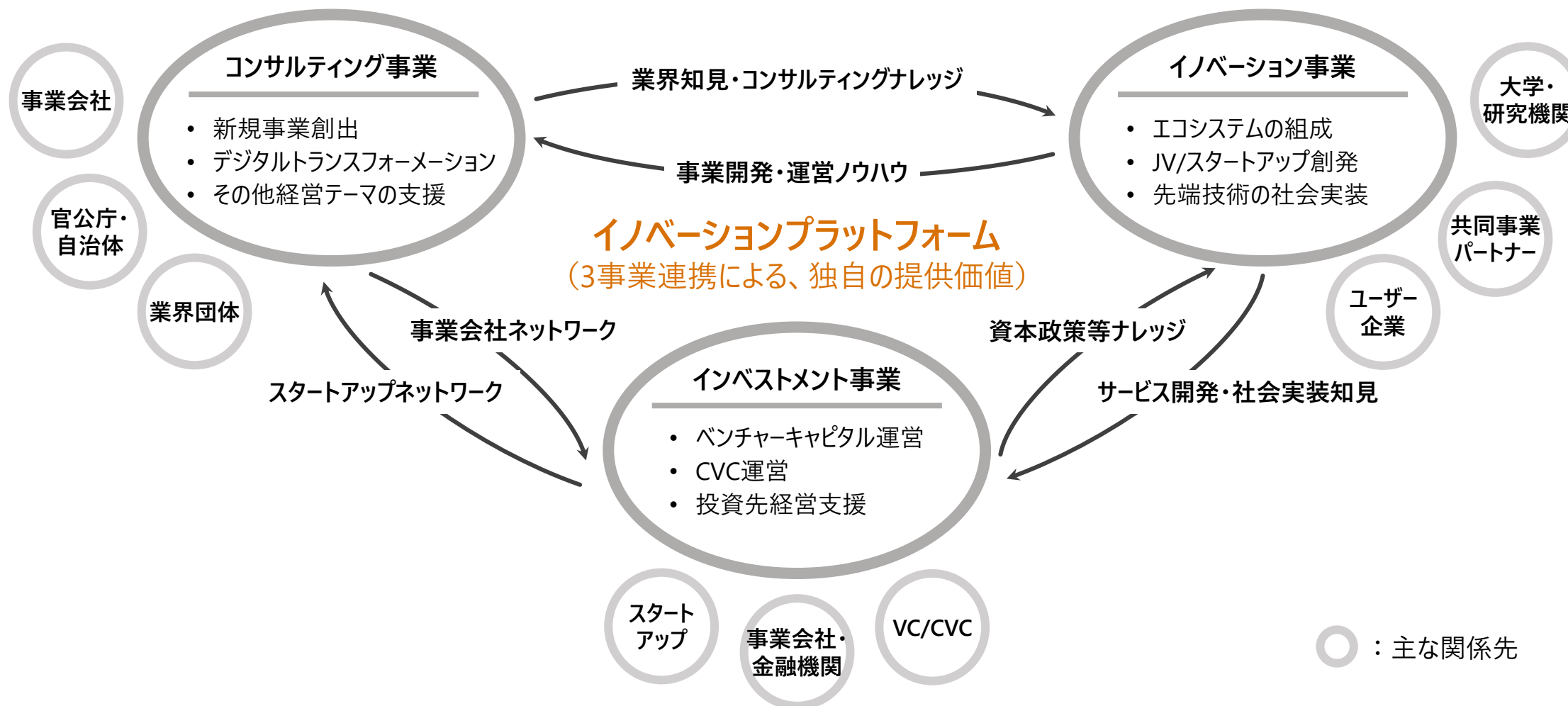
事業領域

コンサルティング、イノベーション、インベストメントの3事業が、社会価値向上のためのプラットフォームを構築し、産官学のパートナーと共に、持続可能な社会と経済を実現します。



弊社の独自性

3つの事業それぞれが業界のプレイヤーを巻き込み、各事業の強みを生かし連携することにより、**独自性の高い「イノベーションプラットフォーム」**としての価値提供を可能とします。



アクセラレータープログラムについて

アクセラレータープログラムとは

アクセラレータープログラムは、スタートアップ企業にとっての“パーソナルトレーニング”のようなもので、状況に応じたオーダーメイドの支援を提供することで、短期間で飛躍的な事業成長の実現を目指す取り組みです。

スタートアップ企業にとっての“パーソナルトレーニング”



企業の状況に応じて、オーダーメイドの支援を提供

メンタリング

販路拡大

投資家の
紹介

メディア露出

ビジネス
マッチング

支援チーム・
企業のノウハウ

短期間で飛躍的な事業成長を実現する

企業の成長曲線のイメージ

アクセラに
参加

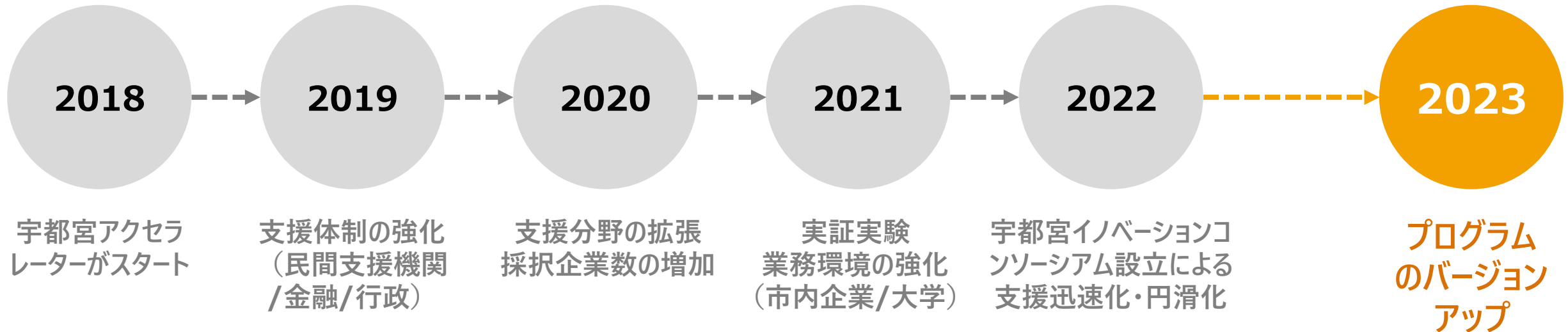
自社だけで
事業を推進

宇都宮アクセラレータープログラムとは

宇都宮アクセラレータープログラムは、今期6期目となり、市内経済のさらなる活性化や雇用創出を実現するため、今年度はプログラムを大幅にバージョンアップし、オープンイノベーションプログラムも新設しました。

目的

- 宇都宮市における**スタートアップ企業のビジネスを加速・拡大**させ、**市内経済の活性化や雇用の創出**につなげる

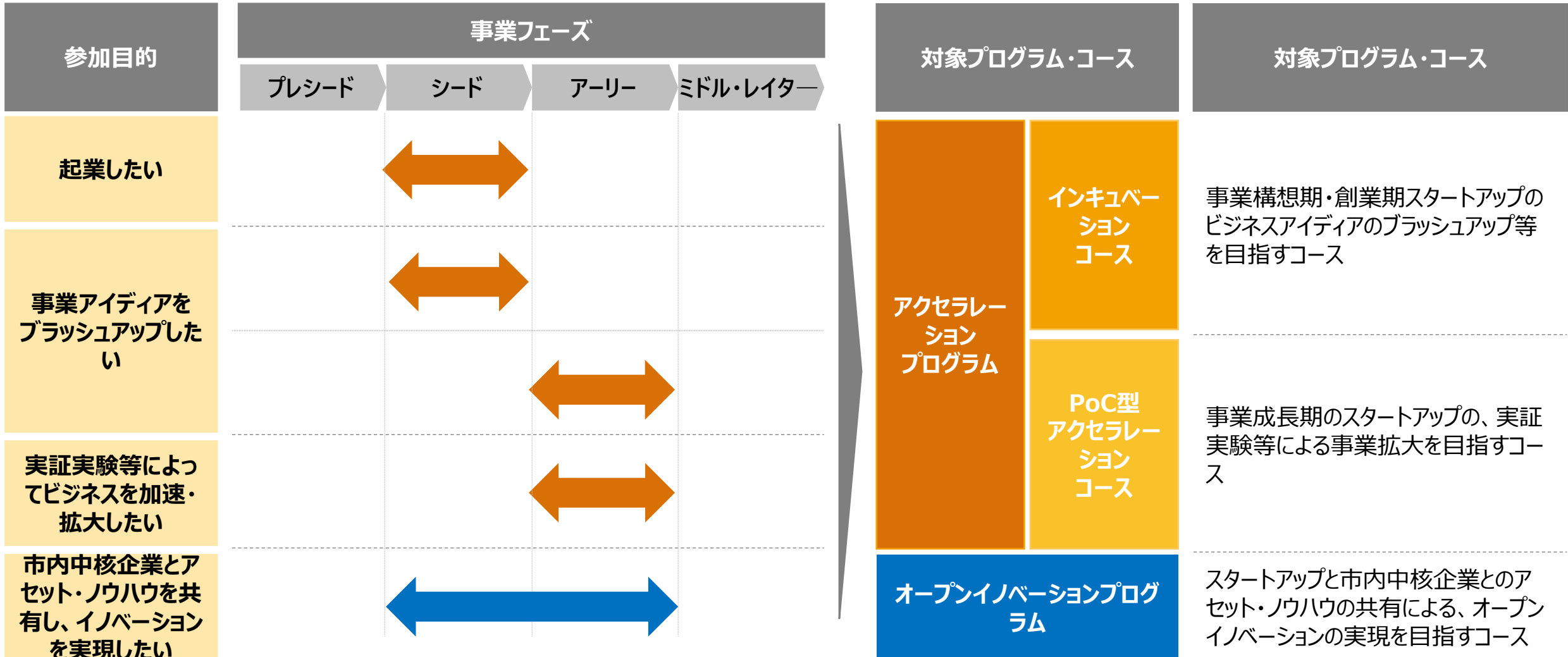


Point

- ① インキュベーションコースとPoC型アクセラレーションコースの2コース体制で、**事業フェーズに応じた支援を提供**
- ② オープンイノベーションプログラムを新設し、**スタートアップと市内中核企業の共創プロジェクト組成を支援**

プログラムの全体像

参加目的と事業フェーズに応じて、アクセラでは「インキュベーションコース」、「PoC型アクセラレーションコース」、加えて、今年からは「オープンイノベーションプログラム」の3つのプログラム・コースを行いました。



応募条件（対象）

アクセラレーションプログラムの応募については、宇都宮市内の事業者または将来的に宇都宮市に拠点を構える予定の方を対象としています。

プログラム・コース	アクセラレーションプログラム		オープンイノベーションプログラム
	インキュベーションコース	PoC型アクセラレーションコース	
応募条件	<ol style="list-style-type: none">1. 宇都宮《市内》の事業者<ul style="list-style-type: none">宇都宮市内に事業所を有する、創業後10年程度（第二創業を含む）の事業者2. 宇都宮《市外》の事業者<ul style="list-style-type: none">宇都宮市内に事業拠点を設置予定、または市内事業者と協業した新事業の立ち上げを予定している創業後10年程度（第二次創業を含む）の事業者。		<ul style="list-style-type: none">創業後10年程度（第二創業を含む）の事業者

その他に特別な条件はございません。
応募時に法人登記をしていない個人や既存企業からのカーブアウトを予定しているチームもエントリー可能です

支援内容

各プログラム・コースの実際の支援内容については採択者と協議し、ニーズに合ったオーダーメイドの支援を提供いたします。

支援メニュー		アクセラレーションプログラム		オープンイノベーションプログラム
		インキュベーションコース	PoC型アクセラレーションコース	
基本的な知識を学ぶ場の提供	事業創造における基本的な知識やノウハウ等を学べる機会を提供します	◎	△ ※ニーズがあれば提供	△ ※ニーズがあれば提供
専門家によるメンタリング実施	各業界に精通した専門家等によるメンタリング機会を提供します	◎	○	◎
実証実験先の提供・実施サポート	実験の協力者や場所の確保、交渉、実施内容の調整等を支援します	△ ※ニーズがあれば提供	◎	◎
関連企業や有益な支援先とのマッチング支援	情報収集、販路拡大、資金調達等を目的としたネットワーク構築及び商談の機会を提供します	○	○	△ ※ニーズがあれば提供
メディア等へのPR支援	成果発表会でのピッチ及びプレスリリースの配信等によるPRの機会を提供します	○	○	○
活動拠点の提供（市内）	宇都宮市内にあるワークスペースを提供します	○	○	○

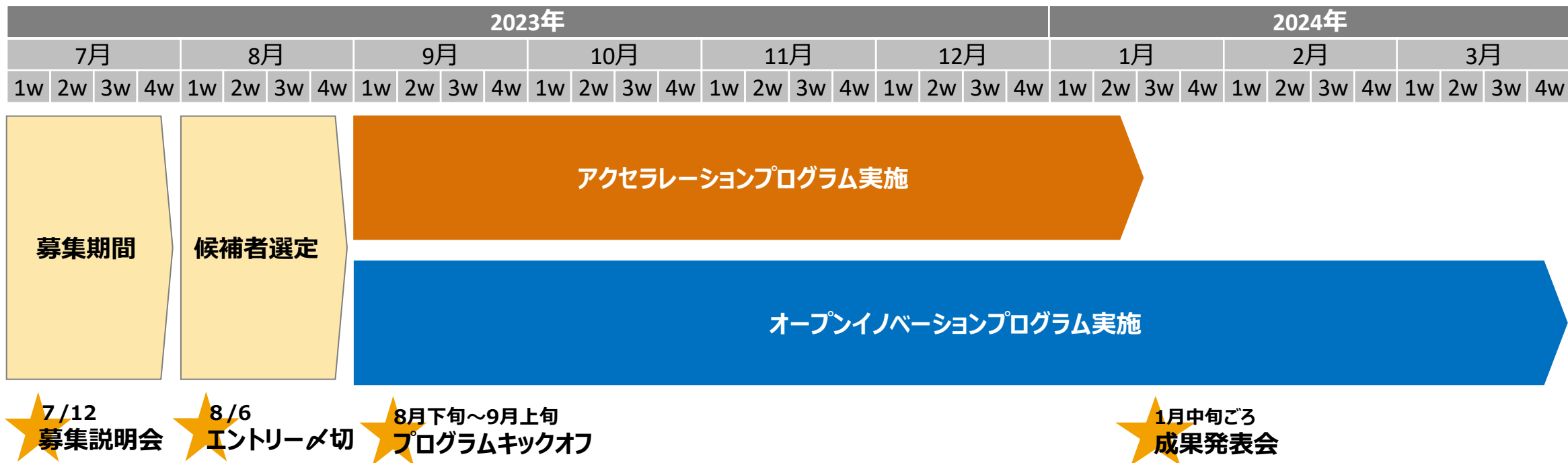
募集領域

アクセラレーションプログラムでは、宇都宮市の特徴を踏まえた以下の5分野で、参加スタートアップを募集し、オープンイノベーションプログラムでは、村田発條株式会社と協業し炭素繊維を活用した製品開発を行うスタートアップを募集

アクセラレーションプログラム					オープンイノベーションプログラム
スポーツ/健康分野	観光/エンターテインメント分野	食/農業分野	モビリティ/宇宙分野	環境/脱炭素分野	炭素繊維分野
					
市内プロスポーツチームの課題解決	観光客の増加・満足度向上	新たな食体験	交通分野の課題解決	環境分野の課題解決	共創パートナー： 村田発條株式会社
#選手育成 #スタジアム運営 #ファンマーケティング 等	#インバウンド対策 #プロモーション #誘客 #ファンサービス 等	#フードシェアリング #食品ロス削減 #食材宅配 #プラントベース食品 等	#公共交通機関利用向上 #シェアリングエコノミー #MaaS #自動運転 等	#クライメートテック #温室効果ガス排出削減 #アップサイクル 等	
市民の健康増進	新たな顧客の創出・新たな体験の提供	農業分野の課題解決	大学/企業との協業しての宇宙分野の産業創出	脱炭素社会の実現	炭素繊維を活用した新製品開発
#健康管理 #体力向上 #ヘルスケアサービス #健康な体づくり 等	#VR #AR #MR #メタバース #NFT #Web3 #イベントプラットフォーム等	#労働力不足 #品質管理 #生産性向上 #ブランド化 #スマート農業 等	#衛星通信 #衛星データ #小型人工衛星 #デブリ #宇宙エンタメ 等	#炭素オフセットサービス #再生可能エネルギー #バイオマスエネルギー 等	#スポーツ用品 #娯楽用品 #旅行用品 #文房具 #モビリティ #ガジェット 等

スケジュール

8月中に審査を実施し、8月下旬～9月上旬に採択者を決定。伴走支援の実施期間はアクセラレーションプログラムが約5ヶ月間、オープンノベーションプログラムが7ヶ月間となります。2月2日にデモデイを開催しました。



選定方法

- ① 書類選考 ビジネスプランの実現可能性や宇都宮市との親和性を判断します
- ② プレゼン選考 事業内容や支援期間に実現したいこととお話いただき本気度や見込まれる成果の大きさを判断します

プログラムの魅力

本プログラムでは、産学官金分野における多数の支援チーム機関や、オープンイノベーションの共創パートナー企業が一体となってスタートアップの皆様を支援しています。

**産学官金が
連携した強力な
支援体制**

Logos of partner organizations include:
Tochigi Youth Supporters Network*, JETRO (ジエトロ栃木), NBC TOCHIGI, Tohigi Toroku (栃木県よろず支援拠点), Utsunomiya University (宇都宮大学), Utsunomiya University Faculty of Food and Nutrition (宇都宮短期大学 食物栄養学科), Kansai Home Center (ホームセンター カンセキ), Tochigi TV (とちぎテレビ), SoftCDC (SoftCDC), FAN, RTC (Sensing Electronics & IoT for Human & Machine), SIC, Utsunomiya BREX, Blitz, entertain JOJO COFFEE, MS&AD (三井住友海上), Kantō Transportation (関東自動車), Murata Spring (村田発條), Utsunomiya City (宇都宮市), Utsunomiya University Faculty of Economics (宇都宮共和大学), Tohigi Bank (栃木銀行), JFC (日本政策金融公庫), Sunri Bank (足利銀行), Tohigi Prefecture Credit Guarantee Association (栃木県信用保証協会), Tohigi Credit Fund (栃木信用金庫), SMBC (三井住友銀行), and Fundinno.





今期の採択企業

今年度は、インキュベーションコースとPoC型アクセラレーションコースの2つのコースで、計9事業者を採択しています。

コース名	概要	社名	事業内容
インキュベーションコース	事業立上げ前・創業直後のSUが、ビジネスモデルの磨き込み等を目指すコース	うさこの服	介護の効率化につながる介護服等の開発と普及活動
		スペース・バルーン	成層圏領域でのトランスポート事業の実現普及活動
		Small River Travel	ビジネスジェットを活用したシェアリング事業
		SOLAR POWER PAINTERS	太陽電池発電インクの社会実装
		BOC Technology	AIや人工筋肉を活用しQOL回復を目指す膝サポーター開発
		Ferment Base	発酵を活用したフレッシュドッグフードの開発
PoC型アクセラレーションコース	成長期にあるSUが実証実験を中心に行うコース	amulapo	AR/VR等のデジタル技術を用いた宇宙疑似体験サービス
		Aruga	女性アスリートの月経サポートができる成長支援サービス
		オトキュア	宇都宮発、難聴で困っている全ての方を幸せにする事業

弊社としての支援内容について

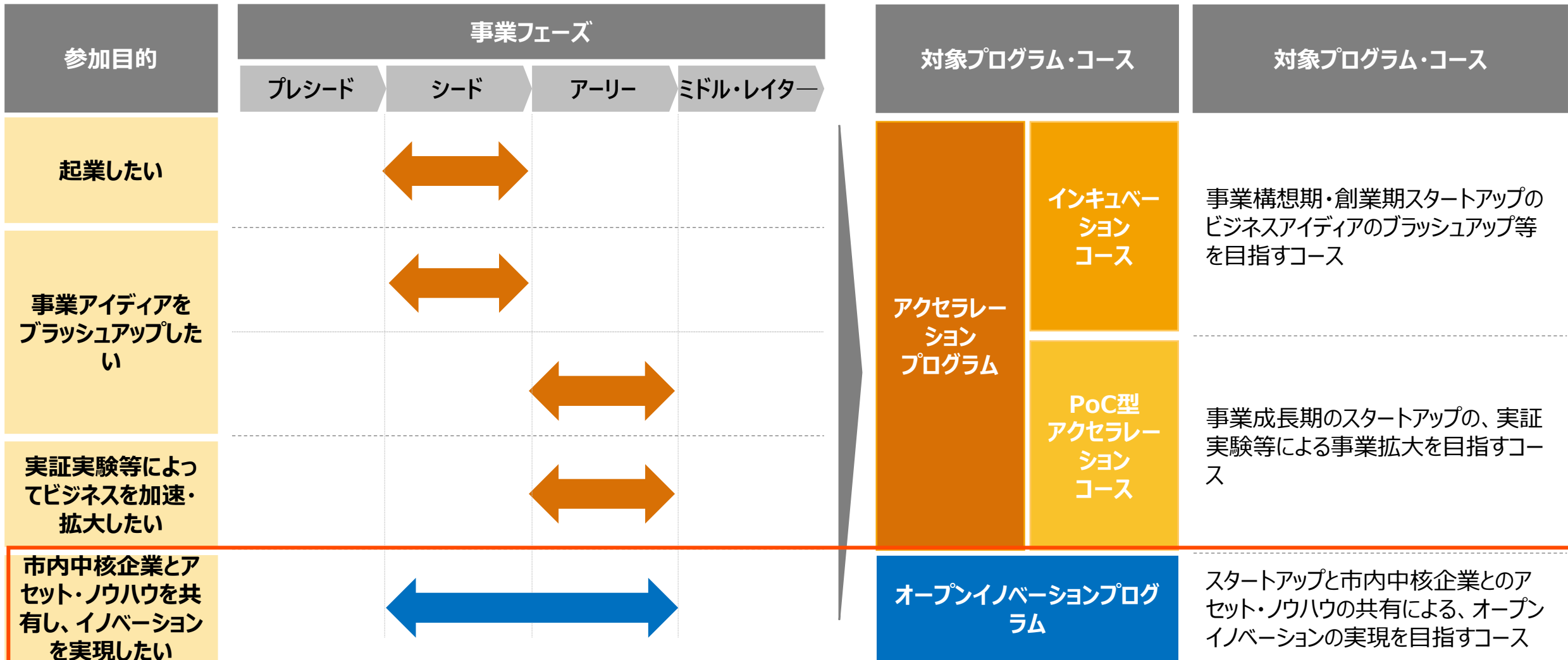
各社ともに、大きくは以下の4ステップでオーダーメイドの伴走支援を提供しました。

ステップ	概要
現状把握	 <ul style="list-style-type: none">• 要望面談を通して、採択者の現状や現在抱えている課題感を把握
ゴール設定	 <ul style="list-style-type: none">• 本プログラムで最終的に目指すゴールを各SUと合意
支援方針設計	 <ul style="list-style-type: none">• ゴールを目指す上での障壁を特定し、それを乗り越えるための支援内容を設計
伴走支援	 <ul style="list-style-type: none">• 専門家等とのメンタリング<ul style="list-style-type: none">➢ 支援チームや事務局のほか、新規事業家の守屋実氏や業界の専門家がメンタリング• 実証実験やヒアリング先を提供<ul style="list-style-type: none">➢ 単なるコーディネートに留まらず、検証事項の設定や仮説構築まで支援• ネットワークの構築<ul style="list-style-type: none">➢ 専門家(大学の先生や医療従事者等) や投資家とのネットワーク構築を支援• プロジェクトマネジメント<ul style="list-style-type: none">➢ SUが進めるべきタスクを設定し、スケジュール・進捗を管理

オープンイノベーションについて

オープンイノベーションプログラム

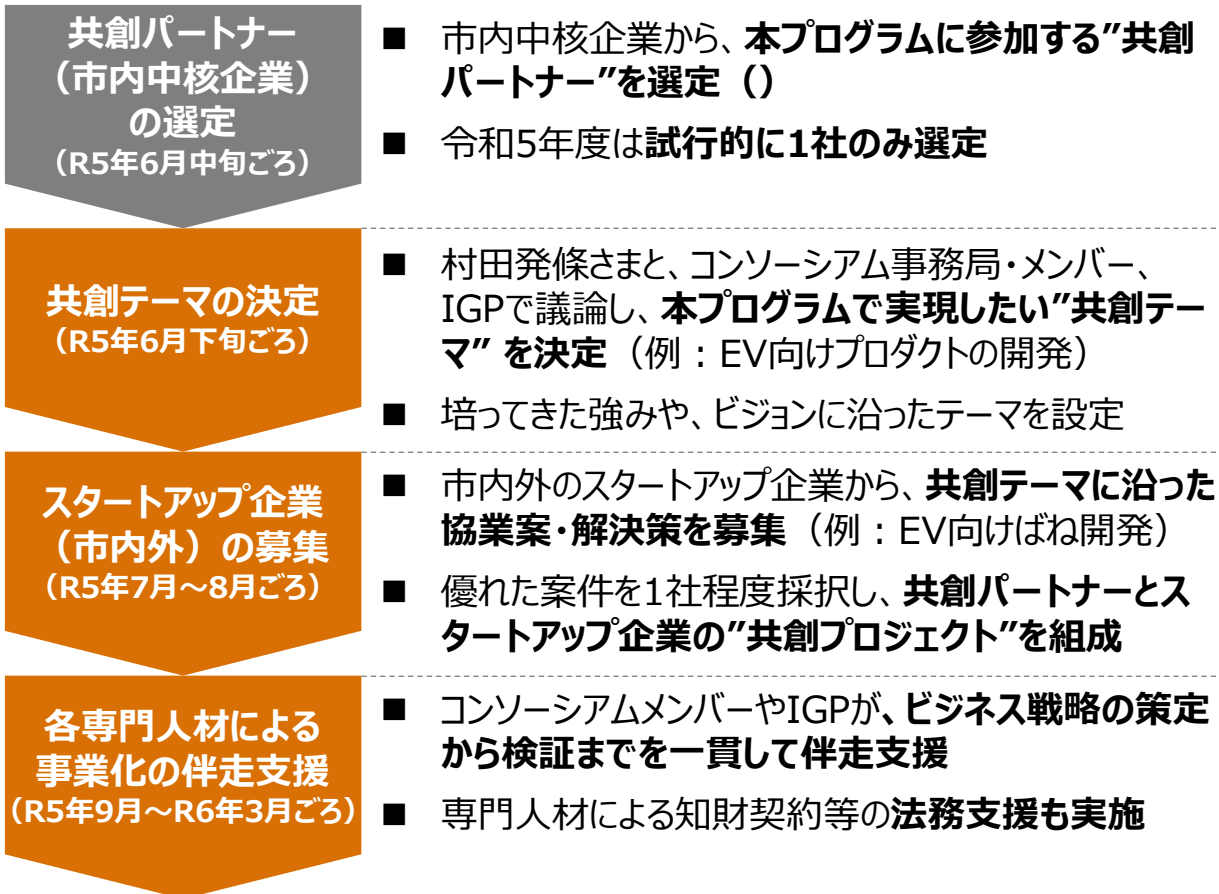
参加目的と事業フェーズに応じて、アクセラでは「インキュベーションコース」、「PoC型アクセラレーションコース」、加えて、今年からは「オープンイノベーションプログラム」新設しています。



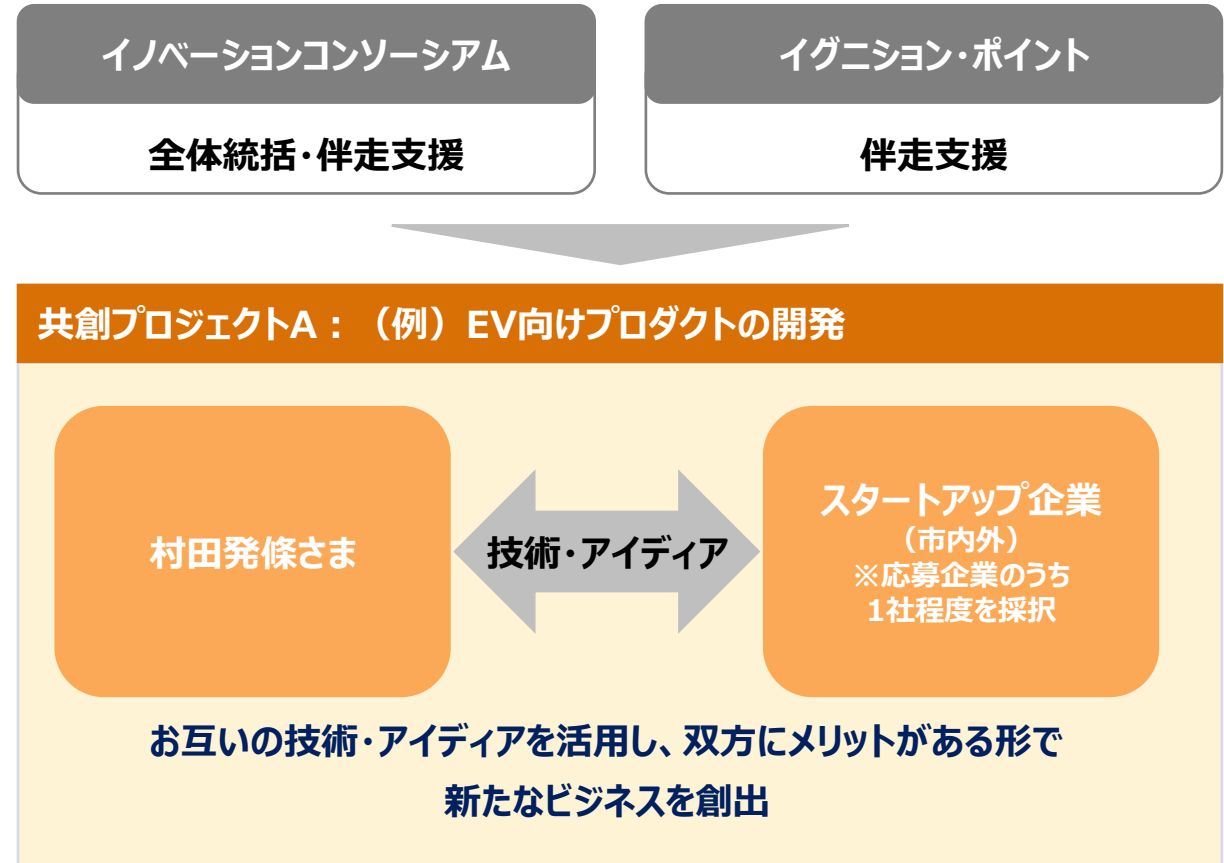
オープンイノベーションプログラム全体概要

村田発條さんが実現したい新規事業などのテーマを設定し、市内外のスタートアップ企業から協業案、解決案を募集、共創プロジェクトを事務局・弊社が伴走支援し、村田発條さん、スタートアップ双方にメリットある形での事業創出を目指しました。

事業スキーム

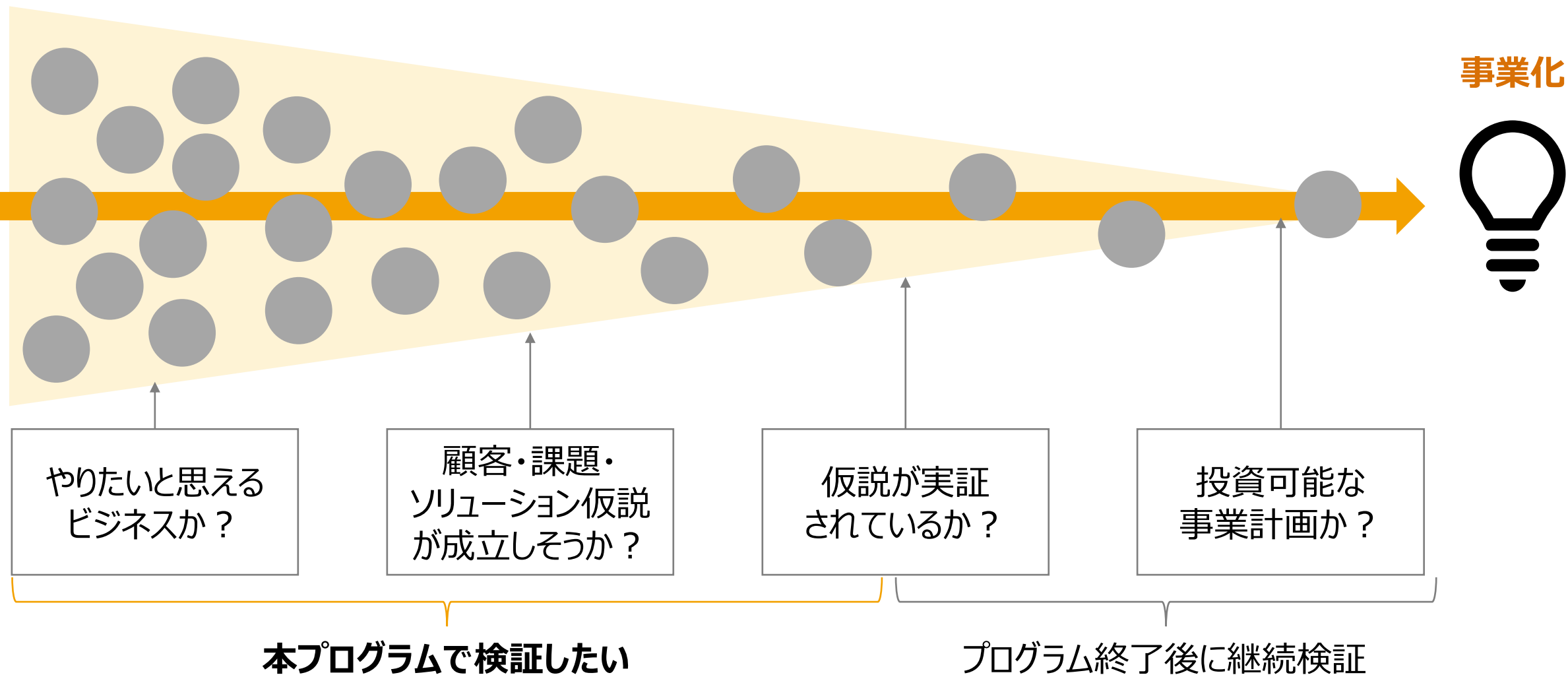


プログラムのイメージ



【TIPS】“良質な量稽古”

量稽古を行うためには、良質な多産多死の概念を理解することが重要です。
また、なるべく多くのビジネスのアイデア出しを行い、仮説構築、SUと協業仮説の対話を通して前に進めていきます。



【TIPS/難所】既存事業のカイゼンとオープンイノベーションの創出の違い

既存事業のカイゼンとイノベーションの創出に必要なマインド・スキル（＝“筋肉”）は全く異なります。

イノベーションを創出するためには、強い思いをもって、良質な多産多死（＝“量稽古”）を繰り返すことが重要と考えます。

既存事業のカイゼン	比較項目	イノベーションの創出
<ul style="list-style-type: none">取組む方向性・課題が明確 （既知：クライアント要求、発生問題への対応 等）	取組む方向性・課題の 明確さ	<ul style="list-style-type: none">何に取組むべきかの方向性・課題の設定から必要 （自分たちの意志で決めることが求められる）
<ul style="list-style-type: none">着実に確証を持って段階的に進めていく （ウォーターフォールの）	進め方	<ul style="list-style-type: none">方向転換はあるものとして、試行しながら進めていく （アジャイル的）
<ul style="list-style-type: none">知恵を持ち寄りマイナス面を抑制 （減点的指摘によるリスクによる振れ幅を最小化）	リスクへの対応・ 態勢	<ul style="list-style-type: none">知恵を掛け合わせプラス面を創り出す （加点的提言によるプラス面への振れ幅を最大化）
<ul style="list-style-type: none">一発必中当初計画の必達が美德	価値観	<ul style="list-style-type: none">複数の案件の中から成功を出す ※ポートフォリオ当初計画に固執しない ※より良い仮説を見出し修正
<ul style="list-style-type: none">削減されたコスト・労働時間などの数字	重視すべきもの （≒KPI）	<ul style="list-style-type: none">何より「その事業をやりたいか？」という思い・意志その上で、市場性・実現性

イノベーションを創出するために必要な“筋肉”を身に着けるためには、“量稽古”をこなすことが不可欠

具体的なプロセスとポイント

各プロセスにおいて、考えるべきこと、考えるべきでないことが存在するため、それに注意しながらプロセスを進めていく必要があります。

プロセス	概要	考えるべきこと	考えるべきでないこと
1 現状の言語化	<ul style="list-style-type: none">村田発條の強み・顧客からのニーズ・社内アイデアを洗い出し、言語化する	<ul style="list-style-type: none">何が得意か？ユニークか？技術的に実現をあきらめたニーズ・アイデアはないか？	<ul style="list-style-type: none">儲かりそうか？実現できるのか？
2 協業仮説の構築	<ul style="list-style-type: none">SUリスト（弊社コネクションあり）を見て、各社との協業仮説を考える	<ul style="list-style-type: none">その事業はやりたいか？誰の課題を解決できそうか？SUに何を提供できそうか？	<ul style="list-style-type: none">儲かりそうか？実現できるのか？SUがアイデアを持ってないか？
3 スタートアップ（SU）との面談	<ul style="list-style-type: none">SUと面談、協業する可能性を探る可能なら対面で実施	<ul style="list-style-type: none">どうすれば協業できそうか？SUの技術の何がすごいのか？SUに何を提供できそうか？	<ul style="list-style-type: none">儲かりそうか？実現できるのか？SUの実績はどうか？SUの技術の何がダメか？
4 協業仮説の共同検証	<ul style="list-style-type: none">SUとNDA等の契約を締結し、協業仮説が正しいか、議論や共同研究で検証する	<ul style="list-style-type: none">儲かりそうか？実現できるのか？本当に組むべきなのか？	<ul style="list-style-type: none">契約を結んだのだから協業を絶対に成立させないといけないのではないか？



本文書（添付資料を含む）は、イグニッション・ポイント株式会社が著作権その他の権利を有する営業秘密（含サプライヤー等第三者が権利を有するもの）です。当社の許可なく複製し利用すること、また漏洩することは「著作権法」「不正競争防止法」によって禁じられております。

本資料内の社名・製品名は各社の登録商標です。